



- ・先日の父の葬儀に際しまして、皆様には大変お世話になりました。
ありがとうございました。 竹田敏和君

スマイル累計額 662,890円

■ **地区研修・協議会報告**



数野晴紀君

会員拡大では、人口も減少し会員数も減少している中、会員維持に各クラブがどのような活動を行っているかをい

くつかのクラブから発表がありました。

地元サッカークラブのサッカー応援に行くという例会があり、そこでポリオの募金活動も行う。会員全員に関わりを頻繁に持たせるために、会員卓話を行っている。定期的に例会の席をシャッフルすることで、いろいろな会員と話す機会を設ける。ゴルフ同好会活動を利用して会員の交流を深める。夜間例会を年に3,4回行う。など活動内容が出ました。当クラブでは、他クラブが行っている活動を行っていることも多く、会員維持にも繋がっていることが実感できました。



渡邊博文君

行動計画推進委員会

中村皇積パストガバナーがリーダーとして推進します

こういうクラ

ブになりたいというビジョンを描きその実現に向けて目標を立てるプロセスです 戦略計画を立てるクラブと立てないクラブでは活動に対する熱量に違いができる すなわち会員自体のクラブに対する満足度が違ってきます

中長期的なクラブのビジョンを策定し進むことがクラブの魅力を発信し活性化させることもで

きます

効果的な戦略計画の展開について啓蒙していくことを求めています

そして、クラブの戦略計画および立案過程を共有します

- ・クラブセントラルへの目標の入力
- ・クラブ戦略計画の立案
- ・目標設定の見直しなど

目標設定の項目は「ロータリーの行動計画（アクションプラン）」が基準になります

3年計画のサポートを行いますすなわち、3年スパンで考え推進していきます

まず、今現在のクラブの長所と課題を周知する

プログラムによるクラブの健康チェックを実施して認知します

他クラブの行動計画を知り、地域の課題を考えます

そして、クラブ内アンケートを実施し、ロータリアン自身が未来を語りあいます

どこのクラブでも大きな課題である会員増強で大事なことは 職業分類を重視し取り組むこと 将来を考えながら 年齢構成を考え組織を作っていくこと このことが、強い組織になると考えます

また、新規事業を起こすことが、クラブ内に刺激を与えます そして 継続事業をもう一度考察し、今後の行く末を考え、コントロールしていくことも必要です

また、他団体との共同作業などを通じて、公共イメージを広げつつ、事業の拡散を促しながら、事業自体の相乗効果を求めていくこともよいでしょう

行動計画推進は、組織を生き物のようにコントロールしながら、将来のあるべき姿を想像し、ロータリー効果的な活動の可能性の広がり求めていくことだと考えます



秋谷貴也君

先ずは、今年も地区研修・協議会に参加させて頂ける機会を与えてくださり誠に有難う御座いました。

2年連続で参加しましたが、昨年は入会半年という事もあり、理解しきれない点が沢山ありました今年度のテーマである「ロータリーのマジック」正直全然ピンと来ておりませんでした。でも、説明を受けていくうちに自分なりに解釈して腑に落ちました。

アーチック会長は数年前、ドミニカ共和国で浄水器の設置を手伝った際に二人の少年が、泥水が綺麗な水に変わったのを見て「もう一度魔法を見せて」と言ったのがきっかけとの事でした。勿論、浄水器が魔法なのではなく、安全な水を簡単に入手できれば自分たちの人生が変わるという事を少年たちは知っていたのです。

私の解釈は、泥水が綺麗な水になる事でその地域に暮らす人たちの生活が変化し、発展に繋がる。すなわち、泥水が綺麗な水に変化するという“小さな変化で終わらず、ロータリーを通して大きな変化につなげていく活動”と解釈しました。

次年度のテーマ「よいことのために手を取りあおう」も“単独では出来ることも限られているが、ロータリアンが力を合わせれば世界を変えられる”と解釈しました。それでは本題に入ります。公共イメージ向上委員会では、

1.MyROTARYの登録向上

2.ITリテラシーセミナー動画作成・公開

3.デジタルよろず相談所の継続

4.他委員会との連携強化

を柱に進めていくとの事でした。

MyROTARYの登録手順書を作成するので、クラブの登録確認をしてまだ登録をしていない人は登録を促すようにとの事ですが、登録することが目的となっていないか？登録しない人は何故登録しないのか又は出来ないのか？色々疑問が浮かびます。

正直、昨年も会員増強と盛んに言うておりましたが、どうしても増員が目的となっていると感じました。実際に収入を増やす為の会員増強と言うておりましたので。魅力がないところには誰も入ってこないし、魅力がなければ入ったとしても辞めていくと思います。

入会1年半の若造が何もわからないのに偉そうなことを言うて申し訳ありません。

ただ、藤枝南ロータリークラブは違うと思います富澤初代会長が設立し会員皆で作り上げてきた“enjoyRotary”私は好きです。

最後に、次期公共イメージ向上委員長にご指名頂き有難う御座いました。私では逆にイメージダウ

ンに繋がらないか心配ではありますが、微力ながら頑張りたいと思いますので、皆様ご協力の程、よろしくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました。



鈴木健夫君

ロータリー財団の補助金には地区補助金とグローバル補助金の2種類があります。

藤枝南クラブで

は、地区補助金を今年度は子ども食堂支援事業に活用し、来年度はRC杯U10サッカー大会での支給を申請済です。

地区全体の支給額は

2024-25年度 102,000ドル

2023-24年度 126,000ドル

2022-23年度 124,000ドルと推移しています

グローバル補助金は予算規模が3万ドル以上、2つ以上の国の地区・クラブが共同で行う事業というしりがあります。地区内でも意外に多くのクラブが活用しています。

ロータリーは1979年からポリオワクチン投与を開始し45年以上の継続事業です。

現在、発症が確認されているのはアフガニスタン、パキスタンの2か国のみでその根絶をめざしています。

毎年10月24日の「世界ポリオデー」また11月の財団月間にはロータリーカードのお願いや、古着でワクチンプロジェクトへの参加依頼があると思います。

ご協力お願いします。



中村博史君

奉仕プロジェクト委員会

・ガナバーは、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕活動において意欲を喚起

市、プロジェクトを支援する。これらの土台にあ

るのは、職業奉仕をはじめとするロータリーの基本理念、価値観でありロータリーを他団体と分かつ要素である。

これらロータリーの基本理念、価値観は、指針を基に個々が実践する事によって持続的に体现されるものである。

全体事業として、奉仕活動セミナーの開催、職業奉仕についての講和。

職業奉仕チーム 「これぞ職業奉仕」という事例紹介等の企画、職業奉仕の講和。

社会奉仕チーム 地区グループ単位による合同奉仕事業の支援、地域課題を知る機会を設ける。

- ・奉仕とはなんぞや 一年通して追求してゆく
- ・自社の仕事をしっかりする事が奉仕につながり、社会貢献になる。

- ・ロータリーの奉仕とは、ロータリーの仲間で仕事を回して会員相互の会社の増強促し、結果的にロータリー活動の活性化につながる。

そのためには、会員の増強が不可欠になる。会員増強の為には魅力があるクラブ作りが必要になる。

ロータリーだからこそできる課題にチャレンジする。

会員の関心を考慮し、楽しく且つ本気で取り組める活動をする。



森竹正晃君

1. 次年度米山事業計画

- ・米山事業についての理解を広める活動

地区内クラブにおいて、委員会メンバーによる米

山卓話実施（10月米山月間等）

現役の奨学生・米山学友を講師に招聘することも可能です。

地区大会でホームカミング事業の実施（活躍している海外の米山学友のスピーチ）

第6代の米山親善大使が7月1日より活動を開始するので講師依頼も選択肢に

- ・寄付の増進

次年度も一人あたり普通寄付金 4,000 円と特別寄付金 12,000 円 あわせて、16,000 円以上を目標に協力をお願いします。

- ・世話クラブへ立候補を推奨

奨学生との交流を通じて米山事業の素晴らしさを理解する

2. 2025-2026 年度

国際ロータリー第 2620 地区

米山記念奨学委員会活動方針

委員会運営方針

委員会は自ら活性し、互いに協力しあいロータリー米山の発展に寄与しよう。

米山事業の使命

将来、日本と世界を結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー活動のよき理解者となる人材を育成する

委員会の役割

- 1 米山事業の意義を伝え、賛同者を増やし、寄付額向上を目指す

- 2 米山事業を深く理解し、奨学生を支え育てる世話クラブを増す

- 3 米山奨学生の活動や世話クラブ・カウンセラーを支援する。



杉浦聡君

オブザーブ参加の杉浦です。この地区研修協議会は、稲葉年度の集大成セミナーになるそうです。

ですので、たった1年後は早くも若林年度の集大成セミナーになるってことです。それを藤枝南クラブがリアル開催で設営する運びです。

研修会の内容の部分ですが、印象に残った言葉としてPDGの小林聡一郎さんがおっしゃった「DEI」の独自解釈でした。ごろ合わせだと思いますが、Dは「だれもが」、Eは「笑顔で」、Iは「居心地のいいクラブ」、お互いが他者を思いやる心持ちが大切だとのことでした。

昨今は拘子定規で要求が多いRI、なんだか企業の支店長会議で業務命令されているみたいでとてもネガティブに感じる人が多いのですが、肩ひじ張らない感じのお考えで少し安堵するご発言でした。

中山恵喜君

4月20日(日)伊東西ロータリークラブをホストクラブとして、オンライン開催(Zoom)されました今年度の地区研修・協議会です。本会議(メインセッション)では、RI 規定審議会から帰国後早々に基調講話をいただいた野口英一ロータリーコーディネーターから「次期 RI 会長メッセージと主要事項に見る新しい方向性」と題して、義務化されていた地区大会の開催が「開催することができる」と任意に規定変更があったこと、また、3年後まで RI 分担金が毎年小刻みながら値上げされることが決議された旨、報告がありました。

分科会は、山本空君送り出しに伴い「ロータリープログラム部会」に参加いたしました。今年度すでに、4回に渡り長期派遣候補学生研修会、受入クラブ・危機管理研修会に参加してきましたので、内容はこれからの受入クラブ等を念頭に置いた、入門編といったところでした。

それでも、小澤委員長(浜松志耀ロータリークラブ)は2022年に新クラブアドバイザーとして岡本一八パストガバナーの元創設されたクラブの初代会長として、志高く「地区委員会はロータリー活動の主体ではなく、主体は皆様が所属している各ロータリークラブです」と説き「青少年事業(インターアクト・青少年交換事業)を通じ将来のロータリアンを育て、事業を通じて地区クラブの活性化と自らの成長につなげる」ことを活動方針に掲げて運営されていらっしゃる。

そのぶれない一本筋の通った活動については、雨宮青少年交換委員会委員長等5名による対談が、今年度配布の「2620 地区50年史」344頁から365頁まで、22ページに渡って掲載されておりますので、ご興味のある方は是非ご一読ください。地区にも本物のロータリアンがたくさんいらっしゃいます。ロータリークラブってすごいところです。



今週の一言

杉浦聡君



行ってよかったところですが、コロナ禍に低山登山を始めまして、その中で印象に残っているのが日本百名山の1つ「大菩薩嶺」です。

山梨百名山にも登録されている山梨県甲州市にある名峰です。標高は2000メートル位なんです。1600メートル位まで車で行ける場所で、ですので400メートル程登るだけなので、若干の難所はあるものの初級者でも充分楽しめる山です。

稜線歩きと言われる山頂からずっと遙か遠方に見える山々を眺めながら歩ける絶景コースです。正に絵画!「絶景にもほどがある!」と心の底から感動した登山でした。

我々の登山は、言ってもハイキングに毛の生えたようなレベルです。毎回楽しみにしていることは、山に登る以外に「食べる」「浸かる」「買う」です。

「地元のものを食べる」「地元の温泉に浸かる」「何か衝動買いをする」。楽しくなければ続かないので、下山後のそんなことを楽しみに登山を続けております。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
5/9(金) 第1594回	会員卓話	理事会
5/16(金) 第1596回	会員卓話	小杉苑
5/23(金) 第1597回	会員卓話	小杉苑
5/31-6/1 第1598回	会員親睦旅行	立山

(担当/鈴木照寛君)